



World Winter Cities Association for Mayors

世界冬の都市

市長会広報誌

〈世界冬の都市市長会事務局〉
〒060-8611 札幌市中央区北1条西2丁目
札幌市総務局国際部内
TEL011-211-2032 FAX011-218-5168
e-mail: wwcam@city.sapporo.jp
URL: http://www.city.sapporo.jp/somu/
kokusai/wwcam/

次回の世界冬の都市市長会議は2016年夏、札幌市で開催します

世界冬の都市市長会は、「冬は資源であり、財産である」というスローガンのもと、世界中の冬の都市が集まり、冬を快適に過ごすための技術や経験、雪の利活用の取り組みなどを学び合うためのネットワークで、2年に1度、会員都市の市長を始めとする代表者が集まり、市長会議を開催しています。

これまで市長会議は冬季に開催されてきましたが、次回2016年の札幌市長会議は、夏季開催を予定しています。札幌の魅力的な夏を通じて、冬以外の暮らしについても学び合い、市長会の活動をより広がりのあるものにしていくことを目指しています。

今回の広報誌では、次回開催都市の札幌市、新規会員都市であるロヴァニエミ市を紹介するほか、世界冬の都市市長会のこれまでの歩みをご紹介します。

2016年市長会議開催都市「札幌市」の紹介

札幌市の人口は、約190万人と日本で第5位の大都市でありながら、豊かな自然に恵まれています。札幌市は、1972年にアジアで初めてとなる冬季オリンピックを開催し、それを契機に国際的な都市として広く知られるようになりました。



札幌の街並み



緑豊かなモエレ沼公園

● 四季・気候

花がいっせいに咲く春、緑が美しい夏、赤や黄色に紅葉する秋、そして白い雪に包まれる冬。

札幌では、それぞれ異なる魅力を持つ春・夏・秋・冬の4つの季節を楽しめます。



年間平均気温(2013年)

8.9℃

降雪量(2013年10月~2014年5月)

478cm



● 文化・芸術



25周年を迎えたPMF(パシフィック・ミュージック・フェスティバル)



札幌の夏を盛り上げるサッポロ・シティ・ジャズ

市民が日常的に多様な文化・芸術に親しむ環境が整っており、展覧会や演奏会などが1年を通して開催されています。2014年には札幌国際芸術祭を初めて開催し、以降は3年ごとの定期的な開催を予定しています。

● 経済・食



北海道経済の中心地札幌

北海道経済の中心として、多くの企業が集まり、活発な経済活動が行われています。

北海道の物流の中心である札幌には、採れたての野菜や果物、新鮮な魚が道内各地から集まり、豊かな食文化を生み出しています。

● スポーツ・イベント



大倉山のスキージャンプ



躍動感溢れるYOSAKOIソーラン祭り

スポーツやイベントの開催は、まちの活力と経済の活性化に繋がっています。冬のスポーツに関して、2017年に冬季アジア大会の開催を予定しているほか、2026年冬季オリンピック・パラリンピックについても、招致に向けた準備を進めています。



おいしい食べ物も札幌の魅力のひとつ

2016年夏、第1回市長会議の開催都市である札幌市での市長会議の開催を通じて、世界冬の都市市長会は、取組の更なる活性化を目指します。会員都市を始め、多くの皆様のご参加を心よりお待ちしております。

※市長会議には、会員都市以外に、「オブザーバー」の参加も可能です。興味のある自治体は、世界冬の都市市長会事務局までお問い合わせください。

世界冬の都市市長会の歩み

●これまでの市長会議

第1回市長会議が1982年に札幌市で開催されて以来、これまで北欧、北米、アジアの都市で合計16回の市長会議が開催されてきました。以前は冬の都市が抱える生活課題の解決を主なテーマとしてきましたが、近年は国や地域、都市の規模にかかわらず、世界的に関心の高まっている地球環境問題をテーマに議論を交わし、会員都市それぞれが環境保全に関する課題の解決に向けて取り組みを進めています。



第1回市長会議(札幌)の様子

1982年 第1回札幌会議

1985年 第2回瀋陽会議

1988年 第3回エドモントン会議

メインテーマ：ビジネス・オブ・ウィンター

1990年 第4回トロムソ会議

メインテーマ：暖かな冬の都市～暮らしの向上と経済発展

1992年 第5回モントリオール会議

メインテーマ：冬と調和した暮らし

1994年 第6回アンカレッジ会議

メインテーマ：未来を求めて北へ

1996年 第7回ウィニペグ会議

メインテーマ：グローバル・リビング～冬の都市の生活と労働、余暇

1998年 第8回ハルビン会議

メインテーマ：みんなで多姿多彩の北方都市を創りあげよう

2000年 第9回ルレオ・キルナ会議

メインテーマ：冬の都市における持続可能な開発

2002年 第10回青森会議

メインテーマ：豊かな北の暮らしを育む～環境・文化・生活～

2004年 第11回アンカレッジ会議

メインテーマ：未知なる冬への挑戦

2006年 第12回長春会議

メインテーマ：冬における発展

2008年 第13回ヌーク会議

メインテーマ：北極圏における気候変動

2010年 第14回マールドゥ会議

メインテーマ：北の都市における環境保全の特性

2012年 第15回ウランバートル会議

メインテーマ：冬の都市におけるエネルギー供給と熱の効率的利用

2014年 第16回華川会議

メインテーマ：冬の都市におけるありのままの自然と資源としての自然を保全し、それらを将来に渡って活用していく有効な方法について

●小委員会の取り組み

1990年の第4回トロムソ会議から、行政実務者及び技術者が専門的な技術・情報の交換、調査・研究を行うための機関として小委員会が設置されています。

名 称	設置期間	事務局都市
冬季都市環境問題小委員会	1990/03 - 1993/09	札幌
ウィンターネット小委員会	1994/03 - 1998/01	カナダ・エドモントン
リサイクル小委員会	1994/03 - 2000/02	スウェーデン・ルレオ
観光促進小委員会	1996/02 - 2000/02	米国・アンカレッジ
経済振興小委員会	1996/02 - 2000/02	ノルウェー・トロムソ
雪対策小委員会	2000/02 - 2004/02	カナダ・プリンスジョージ
自然災害小委員会	2000/02 - 2004/02	札幌
持続可能な冬の都市づくり小委員会	2002/02 - 2006/01	青森
テロ対策小委員会	2002/02 - 2006/01	米国・アンカレッジ
冬の都市環境問題小委員会	2006/01 - 2010/01	札幌
自治体の諸活動における環境保全活動調査小委員会	2008/01 - 2012/01	米国・アンカレッジ
環境保全小委員会	2010/01 - 2014/01	中国・長春



冬の都市環境問題小委員会において、会員都市共通の節電キャンペーンと地球環境啓発キャンペーンを実施

新規会員都市 ロヴァニエミ市の紹介

ロヴァニエミ市は、北極圏に位置するフィンランド・ラップランド州の州都であり、人口は61,000人、面積は8,017平方キロメートルです。人口の3%が第一次産業、13%が加工業と建設業、その他80%以上がサービス業に従事しています。

19世紀以降、観光業が着実に成長しており、毎年約50万人の観光客がロヴァニエミ市を訪れています。北極圏内というユニークなロケーションは世界中の観光客を魅了しており、観光客の約60%が海外からの訪問者です。



ロヴァニエミ市及びラップランド州は、北極圏における運輸と物流の分野で優位性を持っています。これらの分野の専門知識は、とりわけロシア北西部のコラ半島とノルウェー北部地方の運営拠点として、施設の維持管理や補修業務において将来的に有望です。また、ロヴァニエミ市では、特に工業、運送業、貿易や観光業の分野で、サービス、製品、北極圏特有のノウハウ提供を目的とした企業展開が数多く行われています。

北極圏の気候であるロヴァニエミ市は、冬の環境下での自動車のタイヤや部品のテストに最適な条件にあります。寒冷地テストの集積地があり、北極圏の気候に対応するためのノウハウ構築の中心的な役割を果たしています。これは気候条件によるだけでなく、北極圏に関する知識の分野でロヴァニエミ市の地位を高めることを目的として、計画的に行われているものです。

ロヴァニエミ市は、ラップランド州の教育の中心であり、2つの大学を有しています。ラップランド大学は、フィンランド及びEU圏内で最北の大学です。ラップランド応用科学大学は、ロヴァニエミ市に拠点があります。市内には多数の研究機関があり、これら機関の有する専門知識はビジネスにも応用が可能なものです。ラップランド大学にある北極圏センターでは、多様な北極圏の研究を行っており、今後、そのニーズは高まっていくことが見込まれています。



サンタクロースのふるさととして、ロヴァニエミ市では、毎日クリスマスを祝っています。サンタはほとんどの時間をサンタクロース村で過ごしており、いつでもサンタに会うことができます。自動車、トナカイ、ハスキー犬のそりやスノーモービルで、サンタクロース村を訪れることができるガイド付きのツアーがあります。北極圏横断セレモニーなどが含まれるツアーも提供されています。